

C O L U M N



グローバルキャリア支援室室長
高田和生教授

本学はこれまで、医療系総合大学でありながら果敢に教育の国際化を進めてきました。その結果として、今日、国際的キャリア志向の学生が多く入学してきます。本学の役目は、志の高い彼らが、適切なゴールを早期に設定し、ロールモデルを見つけ、長いキャリア形成期間中、常に未来を見つめ、努力を惜しまず、ゴールに到達する——それをサポートすることです。「グローバル人材」という言葉がちまたにあふれていますが、グローバル社会が必要とする人間は、単に英語を話すだけでなく、クリティカルシンキングスキルなどのソフトスキルを持つでも十分ではなく、地球規模の課題解決のために果敢に挑む——「global citizen」としての自覚とミッションを持ち、弛まぬ努力を続ける人間です。そのような真の「グローバル人材」が、本学から多く巣立っていくことを期待してサポートします。



早稲田大学からは国際教養学部・社会学部・法学部・政治経済学部の11人が参加した。

早稲田大学は、2013年よりグローバル人材育成における連携を主な目的として、早稲田大学と包括協定を結んでいる。早稲田大学は、留学生の受け入れ数・

派遣数ともに国内1位の実績を持ち、留学生受け入れ1万人および全学生の海外留学派遣という高い目標を掲げている。

1回目は「グローバルリゼーションと医療・医学」をテーマに早稲田大学で行われ、2回目は会場を東京医科歯科大学に移し、「日本の低出生率」をテーマにディスカッションした。参加した留学生からは、「日本人学生と交流の機会を持ち、社会・文化的な問題の背景について包括的な話し合いができて楽しかった」というコメントが寄せられた。

「自分のキャリアを築いていくには、常に興味を広く持つておくこと、関心のある分野に注力することが重要」と岡講師は語る。



6月には、スイスにあるWHO本部で新型・季節性インフルエンザの疫学・サーベランスに携わった経験を持つ岡邦子講師（厚生労働省健康局結核感染症課新型コロナウイルスエンザ対策推進室）をゲストに迎え、座談会形式で行われた。岡講師は、「学生時代の海外経験を通して貧困に関する問題の根源が、その国の政策にあることが

多様な価値観を持つ人たちのなかで自分の意見を表明する

分かりました。また日本や諸外国での政策が、WHOなどを通じて世界の保健政策にも影響を与えることも目の当たりにしてきました。一見遠いように見えますが、政策とフィールドとは一直線につながっているのです」と語った。このイベントは、医療分野でネットワークを広げる貴重な機会として、毎月開催されている。

【2】 自分のキャリアプランを見い出し実現するために

ファインド・ユア・ロールモデル・セッション

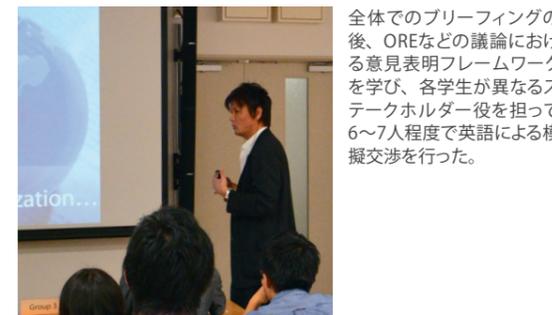
グローバルリーダーを目指す東京医科歯科大学の学生、研究者、若手教職員が、実際に医学・医療分野でグローバルに活躍している人材と交流するイベント「Find-Your-Role-Model session」は、参加者が自身のキャリア形成のために必要なロールモデルとなる人材を見つけることを目的としている。

省健康局結核感染症課新型コロナウイルスエンザ対策推進室）をゲストに迎え、座談会形式で行われた。岡講師は、「学生時代の海外経験を通して貧困に関する問題の根源が、その国の政策にあることが

分かりました。また日本や諸外国での政策が、WHOなどを通じて世界の保健政策にも影響を与えることも目の当たりにしてきました。一見遠いように見えますが、政策とフィールドとは一直線につながっているのです」と語った。このイベントは、医療分野でネットワークを広げる貴重な機会として、毎月開催されている。

【1】 グローバルな舞台で活躍する医療人を目指して

国際医療問題に関する英語模擬交渉ワークショップ



初めは相手の反応を見ながら少しずつ英語を口にしていた学生たちも、題材をよく理解し自分の果たすべき役割が明確になるにつれて、積極的に議論に参加するようになった。

GWでは、参加者一人ひとりが、自身の今後のゴールを定めることを目的として、英語で議論する方法を学び、模擬交渉を行った。模擬交渉には、ステークホルダーとして本学の大学院留学生、ファシリテーターとして昨年GCWに参加した2年次の学生も参加した。

健康・医療をテーマに学ぶ
世界で活躍する医療人になるためのグローバル教育

医療分野におけるグローバル化とは、医療における国際標準化、そして医療の革新・医療政策・医療産業という分野での日本の貢献度を高めることだ。その実現のために、今年5～6月に東京医科歯科大学で行われたグローバル人材育成のための3つの取り組みについて取り上げる。

